

### 編集後記

日本医史学雑誌65巻3号をお届けします。令和元年5月18・19日名古屋市に於ける、第120回総会・学術大会後、初めての学会誌となります。名古屋市での大会は、山内一信会長を中心とした実行委員の方々のご苦勞により、学際の実行と多彩さを感じず、総会・大会であったことを参加者の一人として感謝いたします。会場に参れなかった会員の方も、総会抄録号の多彩な演題を読んでいただけたと思います。今回お届けする本号には昨年12月の六史学会合同例会の抄録がそろいました。その他の論文・書評等にも興味深いものが並んでおります。どうぞデジタル雑誌にはない面白さを受け取っていただければと思います。投稿・寄稿していただいた方々に感謝いたします。

本学会の会計収支の改善を図って、本誌体裁の小変更が総会にて承認されましたが、手にとって大きな違和感はないことを確認しております。会員からの多くの寄付により学会会計収支の改善がありましたが、編集委員会でも出来る範囲での改善努力を行ってゆく方針です。国会図書館デジタルウェブ公開がされた『中外医事新報』の後継誌として豊かな歴史を紡いでゆきたいと思います。

さて、会員総会にて坂井理事長より報告された『医学史辞典』の企画について簡単にお知らせします。これは丸善出版から、日本医史学会編『医学史辞典』刊行の企画申し出があり、理事会・代議員会・総会にても異論なく企画を受け入れることになったものです。学会設立95周年記念出版2022年刊行予定として、医史学の醍醐味を伝える、中項目主義の辞典としたいとのことです。公共図書館・中等教育機関図書館・研究機関・研究者を含む一般に販売できる内容として、A5判800頁、初版1000部の企画です。

ネット文化の隆盛の時代に活字メディアの辞典を刊行する意味としては、ネットには欠けることの多い『中項目主義』をとり、1項目2頁2000字程度の解説文に画像を加え350項目程度をもうける方針です。日本医史学会編集として、日本の知的財産となるとともに学会の財政にも寄与するものを目指しております。坂井理事長・小曾戸副理事長を編集委員長・副編集委員長として編集幹事・委員を任命、体裁・目次・項目の選定を進める方針とのことです。企画が固まり次第、執筆の依頼を学会会員の方々をお願いすることになると考えられますので、ご協力をお願いいたします。研究の成果を含み、かつ辞典の内容として適切・簡潔な執筆は簡単ではないかもしれませんが、ネット文化とは異なる学術の世界を知らしめる辞典が刊行されるように学会誌編集委員会も期待して、進行状況の報告を適時行ってゆきたいと考えております。

(渡部 幹夫)